

第60回試験研究成果発表会（野菜Ⅴ・花植木Ⅰ）発表概要

【日 時】 令和5年2月10日（金）13:00～16:20

【場 所】 農林総合研究センター暖地園芸研究所大会議室（館山市山本1762）

発表1 成果発表

3月どりレタスの優良品種の選定（第69回千葉県野菜品種審査会）

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 小林 由里奈

これまで、年内どりレタス（第67回千葉県野菜品種審査会、令和元年）や厳寒期どりレタス（第65回全日本野菜品種審査会、平成28年）の優良品種を選定してきました。今回は、第69回千葉県野菜品種審査会において、3月どりレタスの優良品種の選定を行いました。優良品種は、「アイスペランザ」、「逸香（いちか）」、「ウィンレー2号（TLE-580）」の3品種です。各入賞品種の特徴について紹介します。



1位入賞 「アイスペランザ」



立毛審査の様子

発表2 成果発表

安房地域における年内どりレタスの省力化安定生産技術

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 曾我 みちる

安房地域のレタス栽培は、冬期の凍害を防ぐために12月以降はトンネル栽培が行われていますが、狭い水田での作付けのため機械化が進まず労力が不足する傾向にあります。そこで、年内どりレタスのトンネル栽培をべたがけ栽培に代替して作業の省力化を図る技術を開発したので紹介します。



べたがけ栽培の様子



トンネル栽培の様子

発表3 成果発表

食用ナバナ根こぶ病の発生を予測する ～畑の健康診断・ヘソディム～

暖地園芸研究所 生産環境研究室 鐘ヶ江 良彦

食用ナバナに発生する根こぶ病は生育不良や減収を引き起こす重大な病気ですが、前年の発病状況や土壌 pH などの「畑の健康診断」を行うことによって、圃場の発病しやすさを予測することができるようになりました。圃場の発病しやすさと、それに応じて栽培前にとるべき防除対策を診断できる、健康診断に基づく土壌病害管理「ヘソディム」を紹介します。



左：健全な生育 右：根こぶ病による生育不良



AI アプリ HeSo+

発表4 情報提供

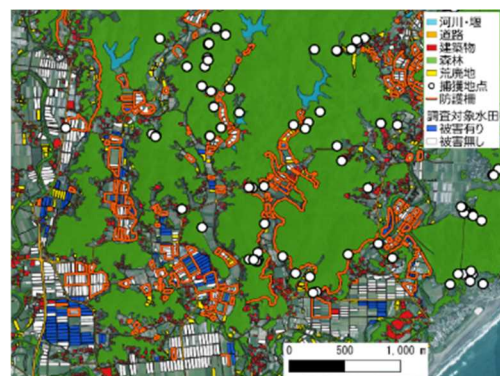
イノシシ被害発生の要因となる景観構造 ～事前に行う有効な対策とは～

暖地園芸研究所 生産環境研究室 内田 耕陽

イノシシ被害対策として、①生息環境の管理、②防護柵の設置、③捕獲が有効とされていますが、全ての圃場に対策を行うのは労力とコストがかかります。そこで、令和元年～3年に南房総市で行った水稻のイノシシ被害調査の結果から、被害の出やすい圃場周辺の景観構造を整理し、対策を優先すべき圃場の環境要因を明らかにしたので紹介します。



山に生息するイノシシの群れ



景観構造とイノシシ被害地点マップ

発表5 成果発表

カーネーションを加害するアザミウマ類に対する各種防除法の効果
～薬剤抵抗性の現状と資材や天敵利用の可能性～

暖地園芸研究所 生産環境研究室 河名 利幸

カーネーション栽培では、アザミウマ類、特にネギアザミウマの吸汁加害による花卉や茎葉のカスリ症状等が問題となっています。その対策として高頻度に殺虫剤散布が行われていますが、被害は軽減されていません。そこで各種殺虫剤に対する抵抗性の実態を調査し効果の高い薬剤を明らかにしました。また、赤色ネット展張による成虫侵入防止効果及び天敵による密度抑制効果について明らかにしたので紹介します。



ネギアザミウマ雌成虫



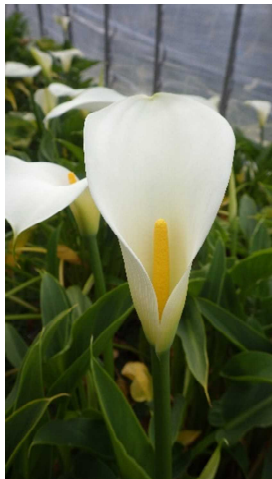
吸汁加害による花卉のカスリ症状

発表6 成果発表

カラ一新品種「Brilliant・Bell」の安定生産技術

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 金子 洋平

千葉県は湿地性カラーの全国有数の産地です。安定した疫病抵抗性と早期開花性を持つ新品種「Brilliant・Bell (ブリリアント・ベル)」を育成し、本品種の早い普及拡大を目指しています。今回は、慣行品種との比較の中で明らかにした「Brilliant・Bell」の栽培特性と、苗の増殖方法について紹介します。



「Brilliant・Bell」



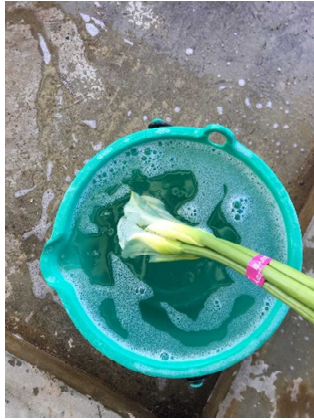
親球と周囲に出来た子球

発表7 情報提供

湿地性カラー切り花の品質保持方法

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 金子 洋平

湿地性カラー新品種「Brilliant・Bell」切り花の日持ち性及び収穫適期を明らかにしたので紹介します。また、湿地性カラーは収穫時期が3～4月に集中し、母の日にカラーが欲しいとの要望に応じきれっていません。この問題を解決するため、市販されている品質保持剤の有効な使用方法と一時保管技術を検討したので紹介します。



品質保持剤処理の様子



日持ち試験の様子